

6月市議会 一般質問(加藤鉦一議員) 敬老会の地区開催の継続に補助を

「上荒俣・細谷線」 の道路整備を

加藤鉦一議員は、住民による「上荒俣・細谷線」の道路整備の要望を取り上げました。

羽黒庁舎支所長は、「国道345号へ直結することで、羽黒山への観光道路ともなり、

中心市街地や工業団地への利便性や安全性の向上が期待され、重要性は認識している」と述べ、一方、「整備財源として県の農道整備事業は廃止となっており難しい。新市建設計画にもとづく要望であり、

重く受け止めるが、関係部署との情報交換に努めていく」と答えました。

建設部長は、「市の道路整備は交通安全や橋梁等の長寿命化対策に

重点を置いており、新設道路の計画は難しい」と述べました。

加藤議員は、合併建設計画主要事業の実施率(事業数)を各地域ごとに明らかにし、「藤島66・67%、羽黒70・59%、櫛引51・22%で、

鶴岡地域は90・91%だ。バランスに配慮し、合併時の約束は責任を持って実施すべきだ。

財源は今100億円ほど残っている合併特別債を当てることのできる」と述べました。

建設部長は「実態について調査していく」と述べました。

加藤議員は、敬老会補助金の削減やあり方の見直しを質しました。

健康福祉部長は、「補助額が削減され、従来と同じ内容の開催はできないと苦慮されていることは認識している。

補助額1100円で地区で開催している事例では、全体の出席率が45%、出席者1人あたり費用は3500円から5000円程度で、

会費が1000円、3000円のところもある。

参加されない人にも1000円程度の記念品を贈呈している所が多い。

費用総額に対する市補助金の割合は平均約42%で、残りは会費や寄附、町内会の負担などである。」と答えました。

加藤議員は、敬老会は行政が祝いすべきであり、地区で開催できるよう、自治振興会の交付金の中に経費を組み入れるよう検討を求めました。

第22回山形マスターズ陸上競技選手権大会が6月9日(土)、天童市のNDソフトスタジオアム山形で開催され、

飯鉢博さん(昭和5年生まれ・88歳・八色木)が60歳以上(80歳以上)で第1位、100歳以上(75歳以上)でも第1位となり、最優秀競技者として「細谷杯」を受賞し、快挙を成し遂げました。



山形マスターズ陸上競技選手権大会
飯鉢博さん(88歳・八色木)が
最優秀競技者「細谷杯」を受賞

【絵を描く】 岩

加藤貞雄(山王町/上平形出身)

岩を描きたい、その思いは齢を重ねるたびに強くなってきた。その存在感や複雑怪奇な岩肌、言葉で言い表せない色合いなどに尽きない魅力を感じている。

そんな岩を水彩で描くことは無理、とは思いつつも、庄内海岸の岩をスケッチしてきたが、意のままにならず中途半端を繰り返してきた。

国道7号線の新五十川トンネルの入口を右手に折れた所に台地がある。そこから見下ろす海にどつしりと構えている岩を見つけた。

岩は波を浴びると生きてくる。怒濤をかぶりながら巨体に白波を巻きつけてひとり悠然と立っている姿は、まるで生き物のようであった。

水彩の絵の具をチューブから絞りだして、そのまま画面にぬたぐりつけて描いてみた。岩と向きあつて夢中

になって描いていると、自分と向きあつて自分の存在感を確かめているのではないかと、ふと思ふことがある。

10年ほど前、鶴岡で戦没画学生の「祈りの絵」展があつた。そこに羽黒の手向出身の芳賀準録さんが描いた岩の絵があつた。

出征を前に休暇を取つてきて三瀬の海岸の岩を描いた作品だと記されてあつた。

その絵の前に立つたときの強烈な印象が忘れられない。その圧倒的な量感と質感、黒々とした色彩、出征を前に己のすべてをぶつけて描いたのであろう岩の絵。

芳賀さんは村を去る時、ただ一言、行つて参ります、と腹からしぼるように言つて、

学生服の肩に小雪が舞う中を消えていったという。(羽黒町戦没者追悼集から)



昭和も遠く49 中町・成澤功

かに
蟹は甲羅に似せて
穴を掘る

6月12日は初めての
米と北の首脳会談だっ
た。
会場はシンガポール。



(昭15・11月)と、世
界一の排水量を誇る軍
艦2隻を進水させた。

その時から何年も経
ずして昭和16年12月8
日、連合艦隊の航空母
艦から発進した海軍航
空隊が、米国太平洋艦
隊の母港パールハーバ
ーを奇襲攻撃した。

あの時点で、すでに
大艦巨砲は歴史の彼方
に去っていたのである。
巨艦2隻の運命はそ
の後どうなったか。



44年
10月24
日、レイ
テ沖海戦
において
シブヤン
海で沈
没。大和

は昭和20(1945)
年4月7日、坊ノ岬沖
海戦において沈没した。
進水後わずか4、5
年である。

「蟹は甲羅に似せて
穴を掘る」とは、カニ
は自分の大きさに合わ
せて穴を掘るところか
ら、「人は自分の分相応
の考えや行いをするも
のだ」というもので、
結局、その人間はその
能力以上のことはでき
ないという意味である。

初の米朝首脳会談は、
過去の「敵対」から「非
核と平和への転換」に
1歩を進めた。

北朝鮮に対する「対
話否定・圧力一辺倒」
路線の安倍総理は、対
話の流れから完全に取
り残されたのは、誰の
目にも明らかだった。

米朝首脳会談と憲法① 新聞各紙は どう評価したか ―あらためて憲法を学ぶ― 青山崇

麻生太郎副総理兼財
務相は5月16日、都内
で開かれた自民党議員
のパーティーで、北朝
鮮の金正恩朝鮮労働党
委員長が搭乗する専用
機を念頭に、「見てくれ
の悪い飛行機がシンガ
ポールまで無事飛ぶこ
とを期待するが、途中
で落ちたら話にならん
と、冗談交じりに述べ
たと報道されていた。

多くの人が終日、観
たであろうこの会談を
どう評価すべきだろう
か。



米朝首脳会談を報じる「しんぶん赤旗」6月13日付

山新は、「両首脳は関
係改善に強い意欲を表
明。朝鮮半島に残る冷
戦構造の終焉につなが
る可能性があり、北東
アジアの国際秩序は重
大な転換点を迎えた」。
読売新聞は、「評価と
批判が相半ばする結果」
と慎重な見方。
朝日新聞は、「2人が
交わした合意は画期的
と言うには程遠い薄弱
な内容だった」と過小
評価である。
日経新聞は、「真に新
たな歴史を刻んだとみ
なすのはまだ早い」と
しながらも、「両首脳が
対話によって核問題解

決への意思を示した点
は「歓迎したい」と評
価。

毎日新聞は、「数カ月
前までは戦争の瀬戸際
と言われた米朝の『雪
解け』は前向きにとら
えたい」と評価し、「た
だし、合意文書は「固
い約束のようだが、懸
念は残る」としている。
産経新聞は、「不完全
な合意を危惧する 真
の核放棄につながるの
か」と題し、「大きな成
果を得られないまま終
わった」と強く批判し
ている。



ウソの考案者が

改ざん、隠ぺい、ウ
ソ・誤魔化しと何でも
ありの安倍政治。これ
を許す自民・公明と司
法、日本の民主主義が
これほどないがしろに
されることは、かつて
はなかった。こんな事
が出来るのも、小選挙
区制のもとで人事権を
総理が握っているから
と思っているが、モリ
カケでこんなことは考
えられないだろうか。
▲政治の動きを機敏に
つかみ、誤魔化しの方
向を考案し提案をする
・そんな者の存在はな
いのか、という事です。
何回かあった、当初は
絶対否定するが数日過
ぎると方向が変わると
いうこと。勿論真実を
求める世論の力もあつ
て変わるといふ事はあ
るが、ある日をさかい
に方向が変わる。
▲特に感じたのが、加
計の理事長が首相と会

「北東アジアの国際
秩序は重大な転換点を
迎えた」(山新)「戦争
の瀬戸際と言われた米
朝の『雪解け』は前向
きにとらえたい」(毎日
など積極的な評価もあ
るが、「画期的と言っ
は程遠い」(朝日)を初
め、「不完全な合意を危
惧する 真の核放棄に
つながるのか」(産経
など過小評価もあり、
全体として「評価と批
判が相半ば」(読売と
いう懐疑的な調にな
っている。

つたという文書が県か
ら出てきたとき、首相
も加計側も即そんな事
実はないと否定した。
しかし、首相のその日
の記録には書かれてい
ないが、必ず会うこと
が出来た時間があつた
こと・記者に気づかれ
ずに通れる入口が在る
ことが判った事から、
文書の存在を認める事
に変えたのではないか。
▲しかし、文書に在る
「首相が言った」とい
うことは、事務局長が
自分の希望を入れて書
いたんだという流れだ。
こうしないと首相が言
う17年2月に初めて知
ったという事がウソに
なるんだ。首相を守る
苦肉の策だぜ。
▲そんなことで県と市
に謝ったんだが、本気
度が感じられましたか。
記者から質問されても
逃げたきりでしょう。
もう将棋で言えば「負
けました」なんだし、
かつての内閣なら辞職
しているゼヨ。(石川)